

## 研究の紹介

### 新規需要米品種の中にはセジロウンカが増えやすい品種がある

(研究成果情報) [http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/karc/2013/karc13\\_s17.html](http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/karc/2013/karc13_s17.html)

#### 【研究の背景】

近年、飼料イネや米粉用などの主食用以外のイネ（新規需要米）の栽培が増えています。九州地域を中心に新規需要米でセジロウンカ（写真1）が多発し、極端な場合、全面枯れの被害（写真2）も発生しています。なぜ新規需要米でセジロウンカの被害が多く起こるのでしょうか。その理由は、新規需要米品種の多くが、大きな粒や高い収量を得るため、ジャポニカ稲とインディカ稲を交配して育成しているためです。セジロウンカはジャポニカ稲では増えにくく、インディカ稲では産卵数が多く増えやすいことが知られています。また、ジャポニカ稲はセジロウンカの卵を殺す“殺卵作用”がインディカ稲よりも強いことがわかってます。新規需要米品種がインディカ稲から育成されていることが一つの理由と考えられます。

しかし、新規需要米でも、どの品種でセジロウンカが増えやすいかはわかっていません。そこで、主な新規需要米品種についてセジロウンカが増えやすさを比較しました。



写真1 セジロウンカの成虫



写真2 セジロウンカによる飼料イネの全面枯れ

#### 【研究の内容】

新規需要米の19品種にセジロウンカを放し、産卵数と眼点形成卵数（産まれた卵のうち殺卵作用を免れて生き残った卵の数）を主食用品種「ヒノヒカリ」と比べました。その結果、「もちだわら」と「タカナリ」は眼点形成卵数が多く、セジロウンカが増えやすいことがわかりました（図1）。「ミズホチカラ」、「北陸193号」、「ルリアオバ」、「ほまさり」、「モミロマン」、「クサホナミ」、「モグモグあおば」は、産卵数と眼点形成卵数が「ヒノヒカリ」と同等でした。それ以外の品種は「ヒノヒカリ」に比べて産卵数と眼点形成卵数が少ないことがわかりました。

#### 【研究成果の活用】

飼料イネでは病虫害防除を少なくすることがありますが、「ヒノヒカリ」よりセジロウンカが増えやすい品種では早めに防除する必要があります。

トビイロウンカも九州地域を中心に発生が多くなっています。今後は、トビイロウンカについても新規需要米品種での増えやすさの違いを明らかにしていく予定です。

【生産環境研究領域 松村 正哉】

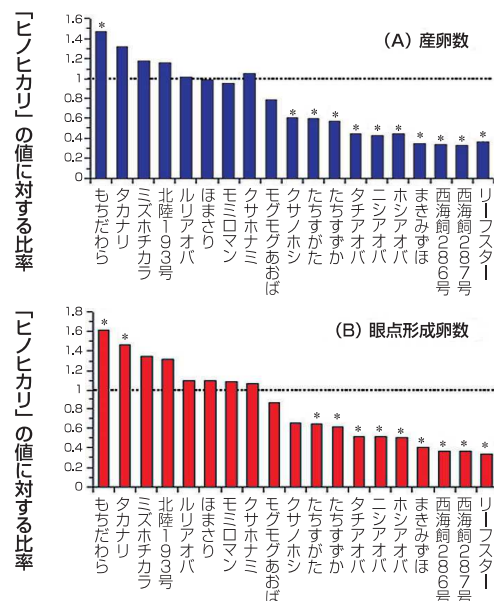


図1 主要新規需要米品種におけるセジロウンカの産卵数(A)と眼点形成卵数(B)の対照品種「ヒノヒカリ」の値に対する比率

それぞれの比率は各品種の値を同時に調査した「ヒノヒカリ」の値で除したものである。

\*は「ヒノヒカリ」に対して有意差 ( $P < 0.05$ ) あり